

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100016		
法人名	社会福祉法人恵優会		
事業所名	グループホーム青葉町日和		
所在地	甲府市青葉町14-15		
自己評価作成日	平成24年8月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの意義や役割を職員一人ひとりが意味を理解するようにしている。利用者の力・家族の力・地域の力を受けながら社会交流を図る。利用者様の尊厳を大切にして人生の師として敬い、本人本位のケアを忘れずに、その方の安心の人となるようにし、心地よい場所作り、残っている力を発揮し生きる喜びを支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

他の介護事業と併設したグループホームである。玄関は、さまざまな鉢植えを置き家庭的な雰囲気作りに工夫している。利用者の孫を思わせる介護職員の礼節と尊厳を大切にした家族的なケアの丁寧さは、心温まるものがある。職員は、利用者ごとの日常をきめ細かくアセスメントし、毎日の状況を把握し支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム青葉町日和

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとしての意義や、グループホームの理念の徹底を図り、ミーティングにてスタッフ全員で意識づけをし、互いに共有することを心がけ、理解してもらう。		地域密着で自分らしい日常生活をという経営理念のもと、ミーティングなどを利用して、全職員が理念を共有している。利用者のペースに合わせた、選択できる支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会を通して、自治会長、民生委員さんの協力を得ながら、祭りなど、自治会の行事に参加したりする。		地域の催しに参加している。散歩に出掛けた時には、地域の人と挨拶をかわし、時には花を見せてもらったり、頂くこともある。近所の商店、理美容店、とんかつ屋、喫茶店に出掛け交流を図っている。恵優会だよりを地域に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネ交流会に参加したり、虐待や身体拘束を如何に防ぐかについても勉強している。他の法人からも勉強会の講演で招かれるなど、積極的に交流している。		/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や質問はミーティングなどを活用して話し合い、議事録は回覧し周知するようにしている。また、出席者やご家族にも郵送している。		会議は、平日14時から開催している。会議の情報から、いきいきクラブや敬老会などの地域の催しに参加したり、事業所主催の夏祭りなどに参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模とグループホームとが合同で作成した会議の議事録を、市町村に郵送している。また、利用者情報も共有している。		市や地域包括の開催する研修会に参加している。市からの紹介があったボランティアが活躍されている。非常災害時には、市の要請で、10名程度の被災者の受け入れができるようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止の為に、研修に参加している。また、グループホーム内での勉強会を実施している。マニュアルはいつでも見られるように設置している。		玄関は、二階であるが施錠はしない。暖簾や植物を上手に配置し、一人での外出気分が和らぐ工夫をしている。言葉を大切にスタッフ心がけ、利用者には選択を促す話し方をするなど、スピーチロックを無くす工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為にマニュアルを用いた勉強会を行ない、関連法規への理解を深められるように努めている。また、日頃の業務の中でも互いに気を付けあい、虐待を未然に防ぐように工夫している。		/	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GHでは、利用者様1名が後見人を利用している。ご家族でも利用される方もいるので、適宜必要の際は活用や申し立てのやり方を説明をしている。法人内で後見人の司法書士により研修も実施した。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の段階からグループホームの意義や役割、契約の内容などについて解りやすく説明し、入居後の心配や不安がないようにしている。また、利用者・ご家族様の疑問や要望も聞いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回ご家族会を実施、アンケートを配布などを行い、ご家族からの直接の意見を伺い、要望や疑問を聞く機会を設けている。	家族からの要望に応えるべく、9月から家賃の引き下げを実施する事となった。利用者の要望は、日頃の行動から判断し、対応している。家族の意見もスタッフが交代で話しかけ聞き取る様に心がけている。誕生会には、好きな食べ物を提供している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の常勤会議で、法人内の連絡、報告、および相談をしている。グループホーム内のミーティングでは、職員全員が出席し、意見交換の場を作っている。夜勤、遅番には、申し送りをし、議事録にて周知徹底している。	施設の節電リーダーが、エコタイプのエアコン採用等提案し、節電に貢献した。職員の食料費節約提言で、地域の商店へ安いものを買出しに行くようにした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接を実施し、長く就労できるように説明、意見を取り入れ、条件の整備を図っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次研修を受ける機会を作っている。グループホーム協会の研修会に積極的に参加している。管理者は認知症ケアについて指導もしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や他のグループホームとのかかわりを持ち、ネットワークの構築につとめている。認知症実践者研修も、随時参加し、地域密着型サービスの研修にも参加している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、見学や説明をし、自宅や病院にも面接に行っている。生活歴を聞き取り、グループホームでの生活に不安がないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にも、前任者より情報提供をもらい、情報の収集を図り、意見や要望なども聞き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を中心とした生活を理解し、生活が継続できるよう支援する。その方にあったサービスを検討し、提供できるように努めている。硬縮予防の為、訪問マッサージなども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを奪わないよう、自立支援を心がける。促しや声掛けによって、自分でできる支援を常に考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れている家族との電話連絡や、定期的な受診、外出などによって、常に家族を近くに感じられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、家族の定期的な面会を自室にて一緒に過ごしてもらったり、町内の方の訪問などもある。	ハーモニカ、囲碁、将棋などは、地域のボランティアが、相手をしてくれる。デイサービスに行きなじみの人との将棋もしている。近所のなじみの喫茶店に行っている。毎週決まった時間に家族から電話のある利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を一緒に置んだり、食事の片づけを一緒に行ったり、歌を歌ったりなど、一緒に時間を共有し、楽しみながら支えあえるような関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族との関係を断ち切らないように、連絡を取り合い、支援、相談、指導などを行うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ともに時間を共有し、ご本人の気持ちに寄り添いながら向き合い、話ができる時間を作っている。その人らしい生活ができるように努めている。	思いが伝えられない利用者には、日常生活の中から思いや意向を読み取っている。また、いくつかの提案を想定し、その中で選択してもらえるよう働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経過や記録、生活状況を予め情報収集し、アセスメントを行い、その人らしい生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調を把握し、個別に実行表を作成し、スタッフ全員、いつ業務に入っても対応できるようにしている。定期的に見直しも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、更新時には、家族、職員、主治医に、意見をもらい、担当者会議も行っている。	面接時のアセスメント・基本情報をもとに利用者・家族にも参加してもらい、暫定プランを作成している。往診医との連携も出来ている。担当者が評価し管理者が確認、モニタリングしている。家族には、電話や来所時に確認するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別計画の評価、受診、往診結果の反映など、職員間で情報の共有ができるように、申し送りノートの活用、ケース記録も効率よく記録できるように、見直し、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の祭りなど、合同レクリエーションに参加したり、本人の希望を聞き、自宅へ帰る支援や、地域へ出かけられるような支援をする。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員から情報をもったり、自治会の行事に参加したりしている。地域の飲食店やスーパーに買い物に行ったりなど、社会交流の機会を作っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの往診を中心に、以前からの主治医を希望する利用者には、家族同行をお願いしている。利用者全員、年に一回は健康診断を実施している。主治医には内服変更など随時情報提供し、インフルエンザも事業所全体で対応している。	定期的に往診医と訪問看護が往診してくれ、24時間対応してもらえるので安心感がある。受信時には家族と一緒に職員が同行するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の看護師とは常に連携し、体調を報告、相談している。入院に至らないように、体調管理にも、職員全員で情報交換し、看護師にも報告、相談をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と同行したり、往診には家族の同席をお願いしている。緊急の場合は、主治医に電話で相談し、主治医より、病院の紹介をお願いしている。病院とは情報交換をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、契約時から話し合い、希望や要望を伺う。24時間対応ができるよう看取りの指針を作成してあることを説明し、理解を得る努力をしており、ご家族会などでも、随時説明を行っている。	看取り指針があり、ミーティングにて、職員に徹底を図っている。重度化し入浴困難な場合は、デイサービスの施設を活用できる。身体的な重度化には、対応可能であるが、医療依存度によっては対応が難しい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修は合同で実施している。AEDの研修も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内にて合同で年4回、避難訓練を実施している。地域の消防団や自治会長などが連絡網に入っている。非常用の水や食料の備蓄も行っている。	9月24日に火災避難訓練を実施し、車椅子利用者を男性職員2名で対応して安心感を得た。近所の消防団の協力もえられるようになっている。連絡先等の掲示がなされている。	1人の夜勤は、非常時に不安です。夜間を想定した訓練を実施し、いざという時にどの様な順番で行動するのが効果的なのか、もう一度職員で夜間の災害マニュアルを見直す事を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、方言などに偏らず、尊敬し敬う言葉かけをするように普段から意識づけをしている。	個室は自宅と考え、施設している利用者もいる。トイレ・入浴等の介助は、同姓介護を原則としている。トイレ誘導には、他人に気づかれないように誘導している。食堂で過ごすのにも、椅子にしますか、車椅子にしますかと利用者の選択を大事にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、起床時に衣類の選択決定や買い物の支援など、ご本人のしたいことをくみ取れるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせて、希望により自室で食事をしたり、午睡の時間や自室での寛ぎの時間を作ったりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの身だしなみやおしゃれができるように、その都度本人の希望を聞き、髪形やお化粧をしたりしておしゃれを楽しめるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会は好みのメニューを聞きながら作ったり、週に一度、利用者のリクエストに応えたメニュー作りを行っている。食事の準備や片づけなどは役割分担をし、気分が乗らない日は休みながら行っている。	おいしい匂いのあるグループホームで、食事を楽しまれている。自分で食べられるよう補助具に工夫がなされている。晩酌を楽しまれることもある。利用者専用の冷蔵庫があり、梅干、納豆、ふりかけ、らっきょうなど入れてある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせ、刻みなど、食べやすいように対応し、糖尿病の方にはカロリーなどを考え食事制限を行っている。午前午後ともに、こまめに水分摂取をしてもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の健康は全身の健康、病気予防につながる為、食後三回、実施している。、月に一回、主治医の歯科医の往診に来てもらい、義歯の調整やクリーニングに通院してる。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄チェックを確認しながら、その人に合った時間誘導をし、排泄の自立を高める促しや声掛けを行っている。	個人ケース記録に排泄状況を細かく記載している。排泄のタイミングを察し、それとなく声かけ支援をしている。リハビリパンツとパットで過ごされ、半数の人は自分でトイレに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との相談や内服のコントロールの場合もあるが、運動量や水分摂取量を確認しながら排泄のリズムを整え、促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望の時間に入浴できるように対応している。失禁などに応じて入浴方法を合わせるようにしている。	日曜日以外は毎日、午後2時から入浴を楽しまれている。温泉ツアーとして併設のデイサービスの風呂も楽しめる。入浴拒否のある利用者には、職員を変えたり家族の協力を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者の生活習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については専門医と相談し、内服による副作用も情報を共有したり、申し送りノートで伝えている。食前食後も個別に配薬し、間違えはないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることや楽しみを引き出したり、レクリエーションや外出行事を積極的に計画に採り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回、家族の参加をお願いし、外出したり、月に一回は外出し、気分転換を図れるよう支援している。外食ツアーも好評である。	散歩は、車椅子、自立、介助者の三名で一時間ほど出掛けている。散歩に出掛けない利用者は、駐車場で日光浴を楽しんでいる。外出行事は、利用者の希望に合わせ、美術館、博物館などへ弁当を持参し出掛けている。100円均一などへの買い物ツアーも実施している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(青葉町日和)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	100円均一のお店へ出かけ、自分のお金を持って買い物に行っている。欲しいものを買う楽しみを味わえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族からの電話が入ったり、本人の希望により家族へ電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間は廊下の電気は安心して睡眠できるように暗めに調光している。夜間のトイレ利用の際にも安心できるような調節も行っている。季節感を出すため、買い物の時に購入した置物なども飾っている。	窓から外を見ると、学校のグラントでとても開放感がある。ベランダには、植物が並べられ、玄関にはさまざまな花の植木鉢が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、仲のよい人同士で過ごせる空間を作っているほか、お茶を楽しめる空間をも心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を用意してもらうなどして慣れ親しんだ生活が続けられるよう配慮している他、買い物で購入してきた物を飾るなどして、季節感やなじみの雰囲気のある場所づくりを行っている。	部屋は、各人の自宅ということで、ベッドの配置、内部の家具、装飾品にそれぞれの個性がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時間をかけることで出来ることも多いため、それを奪わないように配慮しつつ支援をしている。一人ひとりに合った自立の声掛けを行いつつ、支援を行っている。		